

氏 名 日下 あかり  
学位の種類 博士 (医学)  
学位記番号 甲第679号  
学位授与年月日 令和8年3月19日  
審査委員 主査 教授 廣井 直樹  
副査 教授 牧石 徹也  
副査 教授 和田 孝一郎

## 論文審査の結果の要旨

救急医療は医師、看護師、救急救命士、救助隊員など多職種による初動対応に大きく依存している。その教育訓練として世界中で「メディカルラリー (MR)」が開催され、本邦でも、大阪や福島、島根等でシナリオに沿った複数ブースを回る競技形式で実施されている。しかし、国際的にも MR シナリオの教育効果を多面的に評価した例は乏しい。

本研究は 2019 年の島根 MR で行われた 7 課題 (出産、小児、内科、震災、外傷、心肺蘇生、テロ) のうち、交通外傷 (IT)、学童期疾患 (PE)、ショッピングモール爆弾テロ (MC) の 3 課題を対象に、多目的効用値算出法 (MAUT) を応用して、評価項目として設定した①チームワーク向上、②技術向上、③救命率向上、④社会的信頼向上の 4 項目の教育効果を検証した。評価者はステークホルダーとして医師、看護師、救急救命士、救助隊員、MR に関与した事務員の 5 群を設定し、各々が自身の立場から 4 つの評価項目について目標の相対重要度を評価した。救急医エキスパート 5 名が 3 シナリオの実績率を算出した。各ブースの相対重要度と実績率を用いて効用値を算出した。

ステークホルダーによる相対重要度は「チームワーク」が最も高く、「社会的信頼向上」「救命率向上」「技術向上」の順であった。パネリストによる実績率では、MC での「社会的信頼向上」が 4 評価項目中最高であった。各課題の総合効用値は PE 80.2、IT 79.1、MC 88.5 であり、災害・テロ対応訓練の重要性が示された。課題・評価項目別の効用値は、MC の「社会的信頼向上」が 24.6 と最も高く、他の効用値 (16.3~23.0) と比較して高値であり、災害・テロ対応の訓練課題の実施は、地域社会との信頼構築にも資する可能性が高いと考えられた。

競技型高精度シミュレーションは救急医療従事者の教育に有効であり、チームワークや技術習熟、救命率向上に寄与するだけでなく、地域社会の信頼構築にも資する可能性が高いと考えられた。特に大規模災害・テロ対応訓練は防災計画や救急体制の改善に直結する重要な教育手法であると思われる。研究の限界として、評価指標が専門家の主観に依存している点、対象が日本国内の事例に限定されている点が挙げられる。